

シワに対する蒸気温熱アイマスクの改善効果を検討した3症例

○宮崎 彰吾^{1,2)}, 根岸 杏里沙¹⁾, 八木澤 彩加¹⁾

1) 帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科, 2) 帝京池袋鍼灸院・帝京池袋鍼灸臨床センター

【目的】

日本人男性のほぼ半数以上が、年齢よりも若く見られたいという願望を有していて、日常的なスキンケアが必要と認識しているにもかかわらず、加齢に伴いその関心は低下し、シワやシミなどの加齢変化を認識し始める30～40歳代では30%にも満たないことが報告されている。一方、Matsudaらは、40-42℃の温熱刺激を5分間、週に3回、10週にわたって与えることで、自己回復タンパク質である「ヒートショックプロテイン (HSP)」が誘導され、紫外線などが原因でできるシワを防ぐことを報告した。そこで、従来のスキンケア方法ではなく、且つ中年男性が入手しやすい市販の蒸気温熱アイマスクに着目して、シワに対する改善効果を検討した3症例について報告する。

【方法】

症例1は33歳、症例2は38歳、症例3は48歳、で3例とも男性である。3例ともに症例報告として発表することについて、文書にて同意を得た。シワは「新規効能取得のための抗シワ製品評価ガイドライン」に示された0（無い）から7（著しく深い）までの8グレード別の標準写真を参照して評価し、標準写真に当てはまらない場合は1/4値のスコア（例：2.25）とした。また、治療介入期間前後でスコアが1以上減少した場合を「改善」、1未満の減少を「軽減」、減少しなかった場合を「不変」、増加した場合を「悪化」の4段階で評価した。以上の評価は、シワの評価に熟達したスキンケア施術の臨床経験が3年以上の1名が、上記のガイドラインに準拠して撮影した写真により客観的に行った。治療介入については、皮膚表面温度が最高で約40℃となり、5分間以上顔面部を持続的に温めることができる「蒸気温熱アイマスク（めぐりズム、花王）」を用いて1日1回の頻度で2週間使用するように指示した。なお、症例3のみ、本人の希望で左側のみ介入することになった。

【結果】

シワへの効能について要約すると、症例1の右側は2.5から1.5に1.0減少し、左側は2.25から1.25に1.0減少し、左右ともに「改善」した。症例2の右側は3.0から3.0と不変で、左側は3.5から3.25に0.25減少し、左側のみ「軽減」した。症例3（左側のみ）は6.0から6.25と悪化した。

【結論】

今回、蒸気温熱アイマスクのシワ改善効果を検討した3症例においては、シワグレードが低いほど効能が高い傾向がみられ、真皮まで深い溝が刻まれた、いわゆる大ジワの症例については効能が認められなかった。以上から、蒸気温熱アイマスクを用いたシワに対するスキンケアは、主に小ジワの改善や小ジワあるいは大ジワへの移行を防ぐ目的で使用することが望ましいと考える。